

2025年6月2日(月)

知床沖観光船沈没事故 2年5カ月に及ぶ独自の検証報道 第62回ギャラクシー賞 報道活動部門 選奨を受賞

HTB「知床沖観光船沈没事故 2年5カ月に及ぶ独自の検証報道」が、6月2日(月)に東京で開催された第62回(2024年度)ギャラクシー賞贈賞式にて、ギャラクシー賞報道活動部門選奨を受賞し、表彰状とトロフィーが授与されました。HTBが報道活動部門で選奨を受賞するのは第58回(2020年度)「ピンクリボン活動の18年(おっぴい2つとってみた その前と後)」以来、4年ぶり7度目の受賞となります。

ギャラクシー賞は、NPO法人放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために1963年に創設し、放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会が応募のあった作品および選奨事業委員会が推奨した作品(CM部門を除く)の中から、「テレビ部門」「ラジオ部門」「CM部門」「報道活動部門」の4部門について年に一度表彰しています。「報道活動部門」は、放送における報道活動のあり方を議論し、優れた活動に光をあてるとともに、地域の放送ジャーナリズムの活性化を支援していこうと2002年度に設立されました。

審査は、各部門共に年2回(上期・下期)、エントリー作品を受け付けて行い、選出された作品を対象に年間の最終選考が行われ各賞を決定します。「知床沖観光船沈没事故 2年5カ月に及ぶ独自の検証報道」は、報道活動部門入賞6作品に選出されており、今回の選奨受賞となりました。

HTBは、2022年4月に知床沖で小型観光船が沈没する事故が起きた当初から、独自の資料や証言を積み重ね、検証報道を続けています。時間の経過とともに風化しがちな事故の真相を、海上保安庁や警察への情報開示請求や関係者への地道な取材で追及してきました。講評では、「真相に迫るためには簡単には引き下がらない。その姿勢が、海中映像や118番通報記録の開示につながりました。地道な取材を継続しながら、救難体制の課題や全国の船舶事業者への影響などを多角的に取材。遺族に寄り添う姿勢も高く評価します」との言葉を頂きました。

今回の受賞について、取材を続けている報道部・須藤真之介記者は、「知床の観光船沈没事故は、決して忘れてはならない事故だとの思いで、取材してきました。ある遺族の方からは、『あの日何が起こったのか知りたい。同じような事故が二度と起きてほしくない』と切実な声をいただきました。今後も被害にあった乗客家族の思いに応え、全国に発信し続ける必要があると考えています。この受賞を励みに今後も取材を続けていきます」とコメントしています。また、担当デスクの報道部・広瀬久美子副部長は「事故発生当初は、全国から多くのメディアが知床に集まり、その取材のあり方については家族の皆様から厳しいご批判もいただきました。HTBでは地元北海道のテレビ局として、その後も地道に検証報道を続けてきました。事故から3年経ち、事故に関する報道は減っています。未曾有の事故を風化させないことが、ご家族の思いに応えることだと信じ、今後も報道を続けてまいります」とコメントしています。

(発行元) 社長室

